



No. 128 2021. 10. 6

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

コミスク TwitterQR



地域の中から・・・ 当事者意識の中から・・・

『中学生の勉強、大学生が無料で指導 神戸市が独自の学習支援、学びの場を地域で』



参照) 神戸新聞 NEXT
9月30日版

神戸新聞 NEXT 9月30日に掲載された“経済的な事情で学習塾に通えない中学生に大学生が無料で勉強を教える、神戸市の「学びへつなぐ地域型学習支援事業」がスタートした”という記事です。

よく似た取組は地域学校協働活動の一環として、明石市でも放課後子ども教室、土曜日の教育活動としての「わくわく未来塾」や中学3年生を対象にした英数応援団等が実施されています。ただ、本市の地域学校協働活動をみても、こうした施策は縦割りの流れで現場に降りてきがちです。“地域”といわれながら、「地域がかかわっているか」といわれると・・・、そんなところに課題があるのではと考えています。縦割りの流れでおりてくるものを横に紡いで整理する仕組が必要になってきます。おろしていく側がまず横のつながりを視野にいれて施策を練るということも必要なのでは考えます。また、ボトムアップ的に縦割りの流れから横へつなげていく仕組としてコミュニティ・スクールをとらえてみるのはいかがでしょうか。コミュニティ・スクールが全国的に広がる中、“未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力”をどのように育てていくかといった学校や地域の中にある課題を、学校・保護者・地域、そして子どもたちと一緒に熟議する中で、解決に向けゴールを共有し、つながりながら学校や地域に合った仕組を創り出していくのがコミュニティ・スクールだと考えています。理想論のように思われるかもしれませんが、学校と保護者と地域

が当事者として一緒に“未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力”を育む仕組を考え、創り出していくからその仕組が持続可能なものとなり、地域に根ざしていくと考えます。神戸市で始まった取組も学校と保護者と地域が当事者として一緒に考えるからその一環として NPO 団体や地域の塾との新たな価値をもった連携が生まれ、卒業生がボランティアとしてかえてくる循環の仕組ができてくるのではと考えます。そうした循環の仕組の構築が私たちの身の回りにある課題解決に向け必要なのではと考えます。用意されたものを使う時代から、自分たちに必要な仕組を創り出していく時代に変化してきているのではと考えます。

そんな自分たちに必要な仕組を創り出していく取組が、松が丘小で芽をだしてきました。コロナ感染の心配が広がる中、子どもの感染を心配された保護者の方が“できる事をできる時に”と動き始めたのがこの「消毒ボランティア募集」です。

そんな自分たちに必要な仕組を創り出していく取組が、松が丘小で芽をだしてきました。

コロナ感染の心配が広がる中、子どもの感染を心配された保護者の方が“できる事をできる時に”と動き始めたのがこの「消毒ボランティア募集」です。

2021年10月1日

松が丘小学校保護者の皆様

保護者有志

消毒ボランティア募集

☆子ども達に『安全で楽しい学校生活』を☆
☆先生に『子ども達と向き合う時間』を☆

現在、学校では感染症対策のため、子ども達の体調管理、3密を回避しての授業、手洗い指導、換気、校舎内消毒など多岐にわたり実施しています。子ども達が安心して過ごせるように、また先生方が授業準備や教材研究の時間を確保できるように保護者で応援しませんか。

そこで、校長先生に了承を得、校舎内の消毒ボランティアを募集します。出来るときに少しでも構いませんのでご協力をお願いいたします。

日時 10月5日(火)～
毎週火・金曜日 16:00～17:00

場所 手洗い場、トイレの水遣等、多くの人が触れる場所
階段の手すり

持ち物 マスク、上履き、PTA 各名 (お持ちでない方、忘れの方は参加時に
お申し出ください)

学校で用意していただく物
消毒剤、ペーパータオル、使い捨てビニール袋、ゴミ袋

参加方法 ・参加できる日に職員室前にある「参加者名簿」にお名前と
体遣を記入してください(感染症対策の為)。
・消毒場所を確認したら、個々にお持ちのアイテムを持っていただきます。
・作業が終わったら、個々にお持ちのアイテムを返却していただきます。
・少しでも体調の悪い方は無理せず次回に参加ください。
・作業中の急病や失業者の取り扱いなどはお任せください。
・お子様連れでの参加はご遠慮ください。

注意事項

問い合わせ窓口
松が丘小学校 入江教頭
078-918-5435

保護者間で感染が心配という共通の課題を、人任せにするのではなく、当事者として何かできないかという思いで、考え出されたのが消毒作業への参加です。ボランティア募集のチラシには“子ども達に『安全で楽しい学校生活』を”“先生に『子ども達と向き合う時間』を”という呼びかけから始まります。そして、「現在、学校では感染対策のため、子ども達の体調管理、3密を回避しての授業、手洗い指導、喚起、校舎内消毒など多岐にわたり実施しています。子ども達が安心して過ごせるように、また先生方が授業準備や教材研究の時間を確保できるように保護者で応援しませんか」と続きます。こうした“できる事をできる時に少しでも”ということを実践に移すことが、これからの社会には必要なのではと考えます。6年生から始まった松が丘プロジェクトが保護者の中でもスタートしたような気がします。学校・地域・保護者、そして子どもが目の前にある課題を解決するために当事者となって考えられる環境が大人も子どもも育っていく環境なんだと思います。

朝霧小でもコロナ禍の中で子どもたちを応援しようと地域の方がいろいろと動いておられます。そうした中で会話等が増え、地域の方と教職員の距離が近くなったとお聞きします。そうした“できる事をできる時に”といった動きが他校区でも生まれてきているのではと思います。

学校や地域の中にある課題を学校・保護者・地域、そして子どもが当事者意識を持って考え、解決に向けての対話が大人も子どもも育つ「主体的対話的で深い学び」なんだろうなと思います。

教育DXって？



10月10日に「未来の教室」2021 キャンパ
ン×デジタル庁「デジタルの日」が開催され、「教育DXで、子どもたちの学びはどう変わる？」というテーマでオンライン対話がおこなわれます。YouTube で視聴無料なのでちょこっと覗いてみるのはいかかですか。

ただ、教育DXって何？ 最近、教育DXとはよく目にしたり、耳にする言葉ですが、教育DXとはどういったことなのかよく知らないのが今

の私です。そこでちょっと調べてみました。

教育DXは教育分野のデジタル・トランスフォーメーションで、「学校がデジタル技術を活用して、学習のあり方やカリキュラムを革新させると同時に、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立すること」と書かれていますが、すんなりと頭に入ってこないのが正直なところ。ただ、今の私たちの発想は、紙で配っていたプリントをデータで子どもの端末に配信するといった、アナログをデジタルに置き換えるといったものです。オンライン授業も一斉授業形式を対面からデジタル配信に置き換えるといった段階であり、このままでは一人一台端末体制になったが本質的には何も変わらない“なんちゃてデジタル”状態になってしまうのかなと思います。DXはなんちゃてデジタル”の“ちょっと便利になった、効率的になった”という状態ではなく、学習のあり方や校務のあり方をガラッと変えるような発想をしましょうということかなと現段階では理解しています。“学習のあり方や校務のあり方をガラッと変える”といわれても形や答えがすでにあるわけではありません。これから創り出されていくものではなく、創り出していくものだと考えます。教育DXがどういった発想のものなのかを探ってみることはこれからの教育を創っていく当事者として今始めるべきことなのではと思います。

(文責：北本)